

帝政ローマ帝国の第一代の皇帝となった。彼は、属国はローマ帝国の州としての王国を打ち立て、自分の思うままになる名前だけの王や、「総督」と呼ばれるローマの役人にそこを治めさせた。

ローマの文化は、肥沃な三日月地帯全域に広がっていたギリシャ文化によく似ていた。

### ユダヤ人の宗教団体

ユダヤ人たちは、この異文化の圧迫に脅威を感じた。彼らは何度も繰り返し反逆を試みたが、無残にも打ちくだかれてしまった。そのためにますますローマ人を憎むようになった。

たとえば、イエスの生まれたころ、ユダヤ人のある者たちが、神殿の門に建てられていたローマの金の鷲をひっくり返した。そこで、彼らが火あぶりの判決を受けたため、怒り狂った暴徒たちはローマの軍隊に投石した。この暴徒を鎮めるために、ローマの将軍は、2,000人以上の愛国主義者たちをはりつけにした。

とにかく、すべてのユダヤ人たちはローマ人を憎んでいた。しかし、大祭司達の仲間で金持ちのサドカイ派の人たちは、なんとローマに協力した。

ところが、ファリサイ派や、律法学者たちは、ローマ人たちには協力しなかった。

また、熱心党の大半は、ローマに対しては戦闘的であった。彼らはメシアと呼ばれる指導者を迎え人数も増えたが、すべてローマ当局によって死刑にされてしまった。

### ナザレのイエス

イエスは、ガリラヤの小さな町ナザレで、木や石で家を建てる、大工の仕事<sup>を</sup>を身につけた。

ナザレでは、イエスは会堂へ行って、歌や祈りのほかに読み書きを習った。また、毎年、家族と一緒に<sup>は</sup>過越祭を祝うためにエルサレムに上った。

ちなみに、彼の12歳のときのエルサレム巡礼のエピソードは、ルカが、その福音書2章41節から51節で語<sup>っ</sup>ている。

ルカは、イエスの公生活の前の、ナザレでの生活を、「イエスは知恵も増し、背丈も伸び、ますます神と人に愛された(2:52)。」と、総括している。